

(3) 調査方法

ア 生物

a 水生生物の状況

次に示す二つの既存資料から、調査地域の水生生物の状況に関する情報を抽出し、整理しました。

【使用した既存資料】

- ①「平成 24 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」(平成 25 年 3 月 東京都環境局)
- ②「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」(平成 26 年 3 月 東京都環境局)

b 生息(育)環境

「a 水生生物の状況」と同じ資料から、調査地域の生息(育)環境に関する情報を抽出し、整理しました。

c 法令による基準等

関連する法令等を整理しました。

イ 生態系

a 陸水域生態系の状況

「ア 生物」に示した既存資料に基づき、調査地域の陸水域生態系の状況に関する情報を抽出し、表 10.7-1 に示す方法で整理しました。

表 10.7-1 調査方法(陸水域の生態系)

| 調査項目 | 調査方法 |
|------------|---|
| 生態系の機能及び構造 | ・環境類型区分 既存資料の現存植生図等を基に、調査地域及びその周辺を立地環境の特徴(地形・土壌水分・植生・土地利用など)の観点から区分し、環境類型区分図を作成しました。 |
| | ・環境類型区分内の生物と環境との関係 生態系の類型区分の検討・選定を行った後、類型内の生物と環境との関係について整理しました。 |

b 法令による基準等

関連する法令等を整理しました。

(4) 調査結果

ア 生物

a 水生生物（湿地の生物）の状況

①大型水生植物

i 植物種

(7) 植物相

調査地域及びその周辺では、表 10.7-2 に示す 100 科 417 種の植物種が確認されています（資料編 145～150 ページ参照）。調査地域ではミゾソバ、ミズ、エゾノサヤヌカグサ、ヨシなど湿地や水辺を生育環境とする植物が確認されています。

表 10.7-2 確認された植物の内訳

| 分類 | | | 科種数 | |
|------|-------|------|-------|-------|
| シダ植物 | | | 9 科 | 24 種 |
| 裸子植物 | | | 3 科 | 3 種 |
| 被子植物 | 双子葉植物 | 離弁花類 | 51 科 | 174 種 |
| | | 合弁花類 | 24 科 | 108 種 |
| | 単子葉植物 | | 13 科 | 108 種 |
| 合計 | | | 100 科 | 417 種 |

注) 植物相調査は調査地域周辺の樹林を含む範囲で実施されたため、上記リストには調査地域外の確認種数を含みます。植物相調査の範囲はおおむね「連光寺・若葉台里山保全地域（図 10.7-5 参照）」全体です。

(i) 注目される植物種及び注目される理由

調査地域に分布する植物種について、表 10.7-5 の選定基準に基づき、注目される植物種の選定を行いました。

その結果、注目される植物種として、表 10.7-3 に示す 2 科 2 種が選定されました。これらの種の生育状況等は表 10.7-4 に示すとおりです。

なお、これらの種の確認位置は、注目される種の保護のため、図示していません。

表 10.7-3 注目される植物種の選定結果

| No. | 科名 | 種名(和名) | 選定基準 ^{注)} | | | |
|--------------|------|-----------|--------------------|-----|-----|-----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 | イラクサ | ミズ | | | | NT |
| 2 | イネ | エゾノサヤヌカグサ | | | | NT |
| 合計 : 2 科 2 種 | | | 0 種 | 0 種 | 0 種 | 2 種 |

注) 選定基準は表 10.7-5 参照

表 10.7-4 注目される植物種の生育状況

| 種名(和名) | 生育状況 | 分布・生態等 | 写真 ^{注)} |
|-----------|--|--|---|
| ミズ | 湿地の西端の際の林縁部の2箇所、合計13株(10株と3株)の生育が確認されています。 | 山地の溪流、林床、谷戸の湿地に生える一年草。雌雄異株。 |  |
| エゾノサヤヌカグサ | 湿地の中央部で、当該種が優占する群落が確認されています。 | 河川敷や水田周辺の湿地などに群生する多年草。花期は8～10月、花序は15～20cmで下部は葉鞘に包まれます。 |  |

資料：「平成25年度多摩連光寺自然環境調査報告書」(平成26年3月 東京都環境局)

表 10.7-5 注目される植物種の選定基準

| No. | 選定基準 |
|-----|---|
| 1 | 文化財保護法に基づく国、東京都及び多摩市、稲城市の天然記念物・特別天然記念物 天然記念物 ・特別天然記念物(特天) ・天然記念物(天) |
| 2 | 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種 指定種 ・国内希少野生動植物種(国内) ・国外希少野生動植物種(国際) |
| 3 | 「環境省レッドリスト2018」(平成30年5月 環境省)の掲載種 選定種 ・絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN):絶滅の危機に瀕している種 ・絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 ・絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 ・絶滅危惧Ⅱ類(VU):絶滅の危険が増大している種 ・準絶滅危惧(NT):現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素のある種 ・情報不足(DD):評価するだけの情報が不足している種 ・絶滅のおそれのある個体群(LP):地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの |
| 4 | 「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(平成25年5月 東京都)の「南多摩」の掲載種 選定種 ・絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN):絶滅の危機に瀕している種 ・絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの ・絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの ・絶滅危惧Ⅱ類(VU):現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの ・準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの ・情報不足(DD):環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの ・留意種(留):現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの ①準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)/②過去の環境変化により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある/③人為的な環境配慮により個体群が維持されている/④外来種の影響に注意する必要がある/⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている/⑥自然の回復状況をあらわしている/⑦良好な環境の指標となる/⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地) |